
声と笑顔

ポペ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

声と笑顔

【Nコード】

N4792T

【作者名】

ポペ

【あらすじ】

死を受け入れ日々絶望と憂鬱を抱き日々を過ごす彼女。交通事故に遭い体の骨を折り入院している青年。彼女は青年と会い、話、日々に希望と安らぎを少し抱き始める……。

花菱病院の202号室。そこには一人の少女がいた。

彼女の生活はいつも同じことの繰り返しだ。朝起きて、朝食をとり、昼食をとり、昼寝をし、起きて夕食をとる。

見舞いに来る人などいない。彼女が入院してから2年経つが、親おろか友達すら見舞いに来たことはない。

入院したてのころはナースが気に掛け色々話かけていたが、彼女はただ相打ちを打つだけで自分から話そうとしなかった。そのようなことから、ナースも必要最低限のこと以外彼女に話し掛けようとしなくなった。

だが、それはただ彼女が人見知りだからだ。決して彼女が人嫌いなわけではない。しかし、ナースはそれに気付かないかった。

「はあー、何時になつたら此処から出られるのかしら……」

彼女は久しぶりに自らの口で声をだした。

声をだしたのはただの気まぐれであり、誰かに返事を求めたわけではない。

「んなこと、ワイに聞かれても知らへんって。それより、あんさん綺麗な声やな！　なんでいつも喋らへんねん！？」

「えっ！？　誰？」

振り向くと開いていた扉から彼女のことを覗き見る青年の姿があった。

十七、八歳であろう青年は百八十センチほどの背丈で、肌は焼けており短髪のいかにもスポーツやってます、という外見だった。しかし、彼の右腕は包帯で巻かれていた。

「あつ、すまんすまん！　ワイは武城スグル。つい先日、車に跳ねられてもうてな！　んで、肋骨数本と右腕が逝つてもうてな！　笑えるやる！？」

「い、いえ……」

「そか？　ワイ的には腹抱えて笑えることやと思うんやけどな？　ま、ええわ！　で、あんさんなんで喋らへんねん？　綺麗な声してはんに」

彼女は少し顔を下に向けて答えた。

「喋る必要がないから……」

「ほな、喋る必要があれば喋るんやな！？」

彼女は青年の言っている言葉の意味を測りかねた。

「どづいづいとっ」

「せやから、ワイが話し掛ければちゃんと答えてくれるゆーことやろ？　ワイ、メツチャ喋るから皆に避けられてんねん……。まー、

シャーないけどな！！　ワイがメツチャ喋るんは生まれつきやからな！！」

「は、はあ」

「なんや、その気いのはいらん答えは！　もつとないんか！？　うるさい！　とか、やかましいー！　とか」

「ど、どつちも同じじゃない……」

「おお、せやな！　ワイとしたことが！！」

「ふふふ」

「やあ〜つと笑ったな」

「え？」

「いやなに、あんさん何時も暇そーに外ぼーと眺めてはるやる？　笑つてるとこ見たことなかったんよ。まあ、声も聞いたことなかったんやから当たり前言うたら当たり前前やけどな。でも、思った通り綺麗や……。声も笑った顔も……」

青年は気付いていなかった。自分がどんだけ恥ずかしいこと言っているのかを。そして、彼女が顔を赤らめて笑顔になっていたことを……。

「まあ、ええわ！　今日はもう検査の時間やから行くけど明日も来るから話し聞いてやってな〜！」

それだけ言っていると青年は彼女の病室の前からいなくなった。

「うん、待ってるよ……」

彼女は、誰にも聞こえない程の小さな声でそういった……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4792t/>

声と笑顔

2011年10月7日08時27分発行